

げんかい 612

金魚



ニジェール 2014年発行

「金魚」

矢羽田 教昭

日本には、室町時代の末期に中国から伝わってきたといわれています。当初は、長崎などの大名などが飼育する貴重な魚だったようです。それが江戸時代に一部の富裕層の間に金魚の飼育が広がっていきました。庶民に金魚の飼育が広がっていくのは江戸時代の後期のことです。

1724年、奈良県大和郡山の初代藩主として柳澤吉里氏が赴任。多くの金魚職人を一緒に連れてきたことから、大和郡山市に金魚の養殖が持ち込まれることになりました。幕末の頃には、藩に仕える武士の副業となり、藩財政の一助となったようです。



歌川国芳「きん魚づくし ぼんぼん」天保13(1842)年頃 絵はがき

中国では金魚は金余と同じ発音であることからお金が余るすなわち富の象徴とされています。あやかって金魚を多く集めてみました。



日本最初の金魚切手

第1次新昭和切手 5円

昭和21年11月15日発行



みほん



FDC 東京中央 21.11.15 東京都

金魚

第1次新昭和切手 5円

昭和21年11月15日発行



糊なし・白紙



糊なし・灰白紙



白紙・暗い赤紫



糊つき・灰白紙



金魚

第2次動植物国定図案切手 35円

昭和27年5月10日発行



プルーフ



みほん



大蔵省銘版



印刷庁銘版



金魚

新動物園実国案切手 7円 発光切手

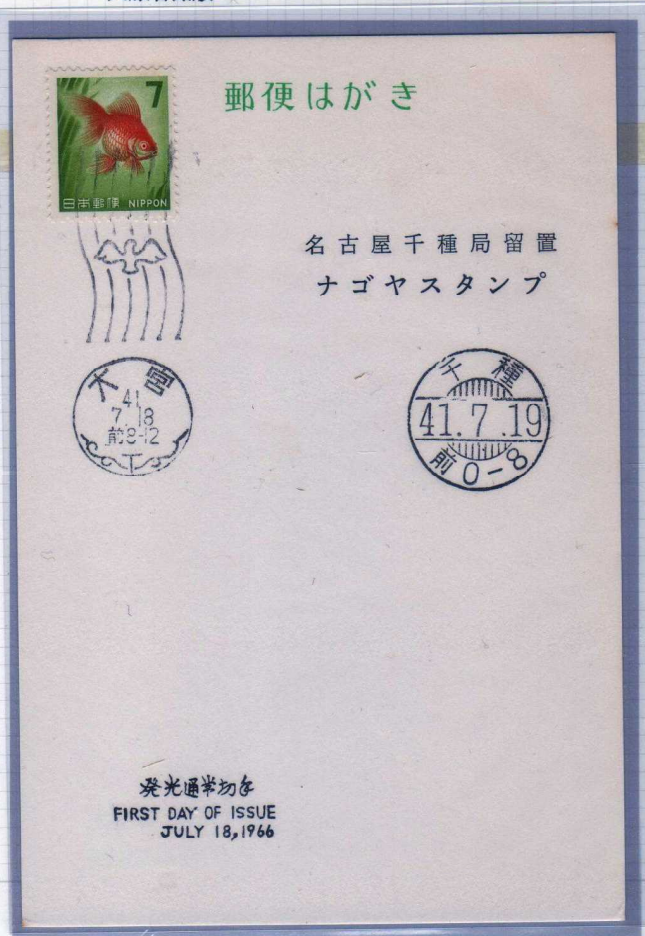
昭和41年7月18日発行



大蔵省銘版



和文機械印
大宮 43.12.12



郵便はがき

名古屋千種局留置
ナゴヤスタンプ



FDC (実通)
大宮 41.7.18 →
千種

発光通半切手
FIRST DAY OF ISSUE
JULY 18, 1966

